

原判決を破殺し本件を名古屋地方裁判所に差戻す

者定の弁そでず行務に然代のて護に法判に上田昭あるにの自と得と任したに原す民を傷害で裏す行  
代弁すしとせ代理に雙方の主張は右前提の間に被護三が認和解して己をか受たに効を判定和解人あるを護す  
益代り使命誰れ訴の双方より主判決とあり。と権弁英の右旨を承ないの無効をた和解人あるを護す  
のなるであを士足す位の有規定の止原ない方であの作成とし久た原告をこれに依した職務の任上げ本人の論がないう  
上の於てと護を己押するの規告避はり双方のの書理護成乍上訴を提出の第一影響取ないも弁かりとい  
事蒙廷の二弁以のすをののの作人護し上訴をこれに依した職務の任上げ本人の論がないう  
人をはれ現あすに己念義の八す護ずるに所も云告調代弁がし、委任はく提出の第一影響取ないも弁かりとい  
告益い取実をの処し更者避れ○ま弁さす法主き、和解の件、阿方五力上右しを免れはなりと人考え  
被不或しかをの依的止第居をを護主つり上と本あ証白津人判ば相手十効たくとの排なに代り人考え  
が等者とし義をの断判は極禁法て乃断効弁をしに通果人てで号し久津人判ば相手十効たくとの排なに代り人考え  
義何使断社し訴否付は以に責が効無効定内容の結頭明か四対阿代をす柄法和をこ問備のうと事者止ざ代理とい  
親中よの判課訟否付は以に責が効無効定内容の結頭明か四対阿代をす柄法和をこ問備のうと事者止ざ代理とい  
田に単護をの容こ条唯張士はの上の書したその出上二、三任人こりう護本審る関理本問の方す位方のの欠点到底の通り判  
土任をへ擁務的任内す五く主張はの上の書したその出上二、三任人こりう護本審る関理本問の方す位方のの欠点到底の通り判  
護委責考を義目受るな十の弁護決はの上の書したその出上二、三任人こりう護本審る関理本問の方す位方のの欠点到底の通り判  
弁右職と権う盲付すを二と人の原行ん法律の旨被裁と第阿久方を記入し然い弁はれ十分や基てもの方す位方のの欠点到底の通り判  
決人土も的をま筋に行法る上このりれそ齟本上す並簡るに護の中氏ない人選左し十否に五はんの相認上は到底の通り判  
判決護い本務まる利益に護寄せと止知てにはた任士屋あ並弁護士田の代理いをも思毫反審さ法ると単もに叙上は到底の通り判  
原上弁は基職るす利代護を以るまにし理由人し委護古で言る護士田の代理いをも思毫反審さ法ると単もに叙上は到底の通り判  
はらはしはのれ頼不の方の弁ををり徳かとし由人し委護古で言る護士田の代理いをも思毫反審さ法ると単もに叙上は到底の通り判  
一が決有士はのれ頼不の方の弁ををり徳かとし由人し委護古で言る護士田の代理いをも思毫反審さ法ると単もに叙上は到底の通り判  
第な判か護に乞り者手為にのつて居道ない代てはを理れ十日もの証た弁護士田の代理いをも思毫反審さ法ると単もに叙上は到底の通り判  
理由定が務は誠その容依論行事一う摘弁居双付原審れ代ら二し人代るすじ状得事べ認め上らび判断し推移弁意との鑑みから原判つて  
理認す責条きけ内には勿論行事一う摘弁居双付原審れ代ら二し人代るすじ状得事べ認め上らび判断し推移弁意との鑑みから原判つて  
告をまは一基受のかは訴訟ないに指をてのに、てす任三認審人とうじ任い訴云のとは叙拘及び判如い規定の廻に使命の対象あると云う  
上と居乃法事件を有する原護この規触八の協議指が六旨を原告人とうじ任い訴云のとは叙拘及び判如い規定の廻に使命の対象あると云う  
本るて能士使命で明する原護この規触八の協議指が六旨を原告人とうじ任い訴云のとは叙拘及び判如い規定の廻に使命の対象あると云う  
たし職護のも進為を類る理はる士立第決は按め協義十趣た被代理の務右形いのもてしり百の右とが相手との禁止の如く第四百七

(裁判長裁判官 下飯坂潤夫 裁判官 渡辺門偉夫 裁判官 海部安昌)